

勝ちへの意識の変化

ルーキーインタビュー 安藤 謙

リーグ戦前期を首位で折り返した駒大。その前期、唯一1年生の中で出場を果たした安藤。出場した試合は4試合ではあるが、そのうちフル出場を果たした3試合は完封勝利を収めチームの勝利に貢献。確実に駒大にとって欠かせない戦力となりつつある。そんな彼に前期を振り返ってもらった。

インタビュー 伊藤優香
写真 野澤俊介、深松美里

駒大への進学理由を教えてください。
「プロには行けなかつたんですけど、強いチームでサッカーを続けたくて駒大に決めました」
入部前は駒大にどんなイメージを持っていましたか。
「早くサッカーっていうよりは、高校サッカーの延長という感じでした。だけど、自分としてはロングパスなどに魅力があったので、そういう所で駒大を選びました」

実際入ってみてどうですか。
「みんなレベルが高いですね。思っていた以上に一人一人上手いし、蹴るサッカーって言われているんですけど一人一人技術持ってるし」
秋田監督の印象はいかがでしたか。
「監督は一つのプレーで色々な所があると怒鳴るんですけど、そういう所で迫力のある監督だと思ってました。でも言ってる事は正しいので良い監督です」

入部してまだ半年も経ちませんが大学サッカーには慣れましたか。
「だいぶ慣れてきましたね。でも、走りは全然ユースの時より走ってるのでそこはしんどいんですけど、だいぶ慣れてきました」
練習はどうですか。
「休む暇がないので、一つ一つ気が抜けないですね」

練習中は結構声を出すタイプですか。
「どつちかかって言つと声出す方です。と言っただけで、声を出してる時は調子がいい時ですね。出てない時っていうのは、のつてない時だったりします」
ユースと大学の違いはどんな所だと思えますか。
「走りとか持ちの部分がじゃないですかね。この大学は気持ちで戦う部分が大いなので、どこで頑張れるかとかそういうのが強いですね。入ってそういう所が強くなったと思います」

入部してから苦労したことはありますか。
「高校でやってたサッカーと全然違って、決められたことをいかに出来るかなんてそういうチームを理解してやる所ですね」
では、成長した部分はどのような所だと思えますか。
「勝ちへの意識ですかね。みんな勝ちにこだわってるし一つ一つのプレー強いくっついていう所が今までと全然違います」
ユースの頃はどんなプレイヤーだったんですか。
「ユースでも強くことはできませんけど、そこまで

変わってないです。と言っただけで、そのサッカーの方が合ってる感じがします。ロングボールだとかロングスロー投げられるんですけど、そういうのを武器にしていきたいと思ってるし、特に今とそんなに差はないですね」
ロングスローは練習して投げられるようになってたんですか。
「特に練習してとかではないです。小学校、中学校は遊びで投げてただけなんですけど、中学最後くらいに、監督に投げるって言われて、投げ始めたのが最初で、それまでは全然意識してなかったです」

突然監督に言われたっていうのは何故だと思えますか。
「たぶん遊びで投げてたのも見てただけだと思えます。自分では投げれると思ってなかったんですけど、なんか飛ぶんですよ(笑)」
ユースの頃は振り返ってみていかがですか。
「ユースでもこれくらい高い意識でやってたらまた違ってたかなって思いますね。今は練習にしても気が抜けないと言っただけで、ユースの時はこちらと受給してた部分があったかなっていう部分があります」

それでは、1年生の中では唯一リーグ戦デビューを果たしたわけですが前期を振り返ってみていかがですか。
「前期2試合負け、最初の方でこけた所があったり、初めて1年で試合に出たっていうのもあって、結構プレッシャーはあったんですけど、1位で通過した事は良かったことだなと思います」
やはり、1年で唯一試合に出るっていうのはプレッシャーになりましたか。
「それもある程度ありましたね。最初ベンチに入っても今までやってた雰囲気と全然違って、その時は緊張しました」

初出場を果たした3節・順大戦は、2-2に終わった状態での出場でした。チームの雰囲気も悪かったと思えますがどんな気持ちで入りましたか。
「チームの雰囲気も悪かったんですけど、自分が出たからには少しでもチャンスに繋がらなかって思ってたんですけど、(チームは結果2-2で引き分け)」
その試合後、チームで自主的に練習を行ったと思うのですが、どう思いましたか。
「初めてそういうのがあったんでビックリしました。でも、それだけ勝ちにこだわってやるのはいい事だと思っただけで、それで次に繋がられた

